

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351
中四国エイズセンターホームページ URL:www.aids-chushi.or.jp

◆平成23年度広島県歯科医師会の会員・準会員及び 広島大学病院歯科診療スタッフのためのHIV感染症に関する 講習会を終えて 歯周診療科 岩田 倫幸

去る平成23年11月27日(日曜日)に、広島大学医学部第4講義室にて開催されました。

プログラムは下記となります。

《平成23年度広島県歯科医師会の会員・準会員及び
広島大学病院歯科診療スタッフのためのHIV感染症に
関する講習会日程表》

平成23年11月27日(日)医学部第4講義室

開会挨拶(広大病院 主席副病院長 栗原英見先生)

講演①「HIV感染症の概要(疫学・病態・治療法)」
講師:広島文化学園大学 看護学部 高田昇先生

講演②「血液暴露後の対応」
講師:広大病院 エイズ医療対策室 藤井輝久先生

講演③「米国CDCの勧告にもとづく、歯科診療に
おけるStandard Precautions 実施への工夫」
講師:医療法人社団皓歯会 前田憲昭先生

閉会挨拶(広島県歯科医師会 常務理事
三反田孝先生)



まず、広島大学病院主席副病院長 栗原英見先生による開会の挨拶に始まり、広島文化学園大学看護学部 高田昇先生による「知っておきたいHIV感染症のポイント」の講演が行われました。

昨年も同様のタイトルでの講演が行なわれましたが、内容のアップデートもなされており、昨年も参加さ

れていた先生にも内容の再確認に加えて新しい知識を得ることができたと思います。また、エイズ発症・HIV感染を疑わせる歯科・口腔疾患の所見も大変わかりやすく説明していただき、歯科医師としてエイズ・HIV感染を早期に発見する手がかりを与えていただきました。

休憩ののち、広島大学病院エイズ医療対策室 藤井輝久先生により「曝露事故後の対応」についての講演が行われました。歯科診療を行なっていくうえで、避けては通れない曝露事故、主に針刺し事故後の対応について、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・歯科助手それぞれに対して詳しく説明をしていただきました。実際の例に沿って、対応方法を教えていただいた上に、緊急時の治療薬の受け取り方法なども教えていただき、大変参考になったと思われます。

再度休憩をはさんだ後に、医療法人社団皓歯会 前田憲昭先生による「米国CDCの勧告にもとづく、歯科診療におけるStandard Precautions実施への工夫」についての講演が行われました。実際に先生が感染予防に対して行われているユニバーサルプレコーションの実施方法を、Zoneの考え方を基にわかりやすく説明していただき、すぐに診療室で応用するためのきっかけを与えていただきました。



(次のページへ続く)

最後に、広島県歯科医師会 常務理事 三反田孝先生により、閉会の挨拶が行なわれ、今後もこのような講習会を開いていくことを目標とすることで終了しました。



なお、当日の参加者は、事前登録者45人、当日参加者6人で合計51人であり、その内、歯科医師会関係者は26名(参加者全体の51%)でした。

講演後に参加者に対して昨年同様「自分の(自分が勤務する)歯科診療所(診療科)で、HIV陽性者が歯科治療を希望された場合、どうされますか」というアンケート調査(アンケート有効回答数:44 <歯科医師:30名(68%), 歯科衛生士:9名(20%), 歯科助手他:4名(10%), 歯科技工士:1名(2%)>を行なったところ、診療する(条件付きを含む)と回答した参加者は34名(77%)という結果でした。昨年度の73%と比較してほとんど変化が認められず、依然として診療しないまたは無回答という回答が20%強認められました。今後も引き続き今回のような研修会を行なっていく、通常診療ならびに肝炎ウイルスなどのHIV以外の感染症患者とHIV感染症患者の診療との間に存在する壁を取り除いていく必要があると考えました。



私自身は昨年もスタッフとして参加しましたが、今回の講習会を通じて、基礎知識の再確認、曝露事故時の対応および感染防護の方法を改めて確認することができました。大学病院の中でもHIV感染症患者の歯科診療に対し

て特別な意識を持っている歯科医師も多いように思われます。今後、この得られた情報を自分自身の歯科診療に応用していくとともに、大学病院および一般開業の歯科医師に対しての情報提供を行なっていく、HIV感染症患者によりよい歯科治療を行なうことができるように心がけようと思います。

◆第2回中国・四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議を終えて 診療支援部 歯科衛生士 松井 加奈子

2011年10月30日、第2回中国・四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議が開催されました。

中国・四国地方の22施設より、歯科医師・歯科衛生士合わせて計36名の参加がありました。

プログラムは下記となります。

《第2回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議日程表》

平成23年10月30日(日)外来棟2階会議室

開会挨拶

(広大病院 エイズ医療対策室長 藤井輝久先生)

講演1「HIV感染症の概要」

和田 秀穂先生(川崎医科大学 血液内科学)

講演2「血友病とHIVの歴史と歯科について」

花井 十伍先生

(特定非営利法人ネットワーク医療と人権 理事・
全国薬害被害者団体連絡協議会 代表世話人)

話題提供「東京都HIV歯科医療ネットワークについて」

松本 宏之先生(東京医科歯科大学歯学部附属病院
総合診療科クリーンルーム歯科)

会議議題「中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の
歯科医療体制構築について」

報告者:領家 和男先生

(鳥取大学医学部附属病院 歯科口腔外科)

司会:栗原 英見(広大病院 主席副病院長)

開会挨拶(広大病院 主席副病院長 栗原英見先生)

開会の挨拶は、広島大学病院輸血部・エイズ医療対策室の藤井輝久先生にいただき、午前中は2演題の講演が行われました。

講演1では「HIV感染症の概要」と題しまして川崎医科大学血液内科学の和田秀穂先生に、講演2では

「血友病とHIVの歴史と歯科について」と題しまして特定非営利法人ネットワーク医療と人権・全国薬害被害者団体連絡協議会の花井十五先生にご講演をいただきました。

日本の現状、歯科受診の現状、治療法の進歩、口腔症状を含めた症例報告等、とても詳細に説明していただき、日常的な標準予防対策を徹底することで、HIV陽性者が歯科受診時に診療拒否を心配する必要のない歯科診療体制の構築が必要であることを再認識できたと思います。

午後は、東京医科歯科大学歯学部附属病院総合診療科クリーンルーム歯科の松本宏之先生に「東京都HIV歯科医療ネットワークについて」を講演していただきました。東京医科歯科大学の現状、HIV歯科、行政と診療ネットワークについてお話しされ、歯科からHIV内科へのメッセージをご提案いただきました。



最後の講演は鳥取大学医学部附属病院歯科口腔外科の領家と男先生からの「鳥取県におけるHIV陽性者の歯科診療体制構築」に関する報告でした。2010年より領家先生が取り組んでこられた過程を症例報告を交えながら、また歯科診療従事者を対象としたHIV/AIDSに対するアプローチの必要性についてご報告いただきました。



歯科医療従事者にHIV感染症の教育を行うための講習会等も確実にを行い、鳥取県における歯科医療体

制構築を早期に確立した鳥取大学の取り組みにはとても感銘を受けました。

このように、HIV陽性者に対する歯科診療ネットワークの構築は中国・四国地方において、徐々に広まってきていますが、今回の研究会議を通じて、未だ歯科医院での診療拒否の実態や歯科医療従事者のHIV/AIDSに関する知識不足など、依然多くの課題が残されていると感じました。



中国・四国ブロック拠点病院である広島大学病院の歯科に従事するものとして、地域の各病院、歯科医院の模範となり、患者のニーズに応えられる歯科医療が提供できるよう、自分自身も正しい知識の習得に尽力する必要性を改めて感じる事ができました。

◆平成23年度HIV感染症 研修会の報告 薬剤部 薬剤師 藤井健司



平成24年1月30日、31日の2日間にわたって国立病院機構大阪医療センターで行われたHIV感染症研修会へ参加させていただきましたので報告します。

この研修会は西日本の国立病院機構、エイズ治療拠点病院でHIV感染症診療に携わっている、もしくは今後携わる医師・看護師・薬剤師・カウンセラー、MSW等を対象としており、約70名が参加していました。

私は昨年末からHIVに携わるようになったばかりで、まだまだ知識が足りないと感じていましたので、HIVについて学ぶ上で良い機会だと思い参加させていただきました。

研修内容は大阪医療センターでHIV感染症診療に従事している医師、看護師、薬剤師、カウンセラー、MSWからHIVについての基礎知識や、それぞれの立場での治療の現状についての講義でした。

(次のページへ続く)

下記が研修会のプログラムです。

《平成23年度HIV感染症研修会プログラム》

1日目

- ①「当院のHIV診療の現状および最新の治療、
HIV感染症の抗HIV療法」
国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS先端医療開発センター長
白阪 琢磨先生
- ②「HIV感染症の診断」
国立病院機構大阪医療センター
エイズ先端医療研究部室員 渡邊 大先生
- ③「HIV感染と肝炎」
国立病院機構大阪医療センター
消化器科科長 三田 英治先生
- ④「外来看護と療養支援」
国立病院機構大阪医療センター
看護師（HIV看護コーディネーター）
下司 有加先生
- ⑤「HIV陽性者の立場から」
特定非営利活動法人
日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

2日目

- ⑥「HIVとカウンセリング」
国立病院機構大阪医療センター
臨床心理室 心理療法士 安尾 利彦先生
- ⑦「日和見感染症」
国立病院機構大阪医療センター
感染症内科医師 矢嶋 敬史郎先生
- ⑧「針刺し暴露後対策」
国立病院機構大阪医療センター
感染症内科医師 富成 伸次郎先生
- ⑨「女性とHIV」
国立病院機構大阪医療センター
感染症内科科長 上平 朝子先生
- ⑩「AIDS患者の看護～病棟看護の実際～」
国立病院機構大阪医療センター
西8階 副看護師長 金子 春恵先生
- ⑪「HIVとソーシャルワーク」
国立病院機構大阪医療センター
医療相談室 医療社会事業専門員 岡本 学先生
- ⑫「薬剤師の役割と服薬指導」
国立病院機構大阪医療センター
薬剤科 調剤主任 吉野 宗宏先生
- ⑬「HIVと血友病」
国立病院機構大阪医療センター
感染症内科科長 西田 恭治先生

1日目の最後には日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスの方から「HIV陽性者の立場から」という題目でHIVに感染しているとわかってどう感じたか、自分がどう変わったかや、今までの治療についてどう感じたかなどについての講演もありました。



先生方の講義もとてもわかりやすく、今後私がHIVに携わる上で大変参考になりました。また、先生方の講義の中や、陽性者の話の中で「HIV感染者のためにするのではなく、すべての患者さんのためにする」という

ニュアンスのフレーズが何回も出てきたことが私にはとても印象的でした。そして、医療者が率先してそのように行動することで、社会全体のHIVへの偏見もなくなっていくのではないかと感じました。

研修会に参加したことで、今まで勉強できていなかったHIVの詳しい歴史、今までの変遷、その中で克服してきたこと、これからの課題など、様々なことを学ぶことができました。そして私が薬剤師として、どのようなことを勉強していくべきかも見えてきた気がします。

HIVの治療は日々進歩しており、私自身の中の情報を常に最新に更新するためには、今後も勉強会に積極的に参加していこうと思います。そして、患者がよりよい医療を受けられるように努力していこうと思います。



〈ご意見募集〉

ご意見やご希望がございましたら、
エイズ医療対策室（内線5351）
までお寄せください。